

牧羊ひろば



明野キリスト教会

主に感謝せよ、主は恵みふかく、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。
詩篇 一一八・一

明野キリスト教会は、今から十六年前、一九九六年に京都府の南部に位置する八幡市に献堂されました。隣接する大阪府枚方市には、同じ日本イエス・キリスト教団の枚方希望教会があり、そこから生み出された教会です。近くには木津川、宇治川、桂川の三川が合流し、淀川となつて南西へ流れて行く雄大な風景が広がり、治水を目的とした背割堤には延々と桜並木が続きます。また、教会からは、標高一四三メートルほどの男山が望めます。山のかなりの部分が住宅地となっており、近年開発された新しい街並みには、子どもたちの姿も多く見受けられるようになりました。

●教会学校の始まり（一九七三年頃）

八幡市に男山団地が造成され始め、最初の入居が始まったのは、約四十年前のことです。A棟に一軒のクリスチャンホームが引越して来られました。「福音を伝えたい」という熱い思いを持ったこの家族のご自宅で、最初は十人位の子どもが集まり、土曜子ども学校が始まりました。その頃、枚方希望教会では「男山地区にキリスト教会を！」というビジョンが掲げられていました。そうした中、この子どもだけの小さな集まりは、場所を団地内の貸し部屋に移し、大人のための集會も毎週開かれるようになりました。次には男山団地の一軒を購入して枚方希望教会の男山伝道所となり、また次には十字架を立てることのできる教会堂をとの思いが起こされ、やがて明野地区に教会堂を建設することができたのです。

明野キリスト教会の始まりが、一つのクリスチャンホームのご自宅で始まった小さな教会学校であったことを思う時、主の恵みの確かさを感じます。そして、当時の牧師や教会員、神学生の方々の祈りと、捧げられた奉仕を思い出します。

●明野キリスト教会 教会学校（一九九六年頃）

明野に新会堂ができると、教会員の子どもや家庭集会に集う人の子どもが、日曜日、主日礼拝後の教会学校に集いました。近くに橋本小学校とそれに付属した幼稚園があり、下校時に教会の「子ども大会」のチラシをもらった小一の男の子が「絶対行きたい！」と言って、お母さんと幼稚園の弟さんと一緒に来たこともありました。間もなくお母さんはイエス様を信じて洗礼を受け、現在は教会学校の教師として奉仕をされています。男の子は、周りが目を回すほどの元気さでしたが、今では感じの良い青年となり、数年前に洗礼を受けました。他の教会員の子どももそれぞれに洗礼を受けたり、日曜日の中高科に集ったりしています。

その後、教会員のお孫さんが友だちを誘って集うようになりました。けれども、最近の子どもたちは暇ではありません。子どもたちが集いやすい曜日や時間を考える必要が出てきました。

●CS土曜学校（二〇〇九年）

二〇〇九年からは、毎月二回、土曜日の午後二時に土曜学校を始めました。途中から変更して午前九時半に、翌二〇一〇年一月からは毎週午前九時半に土曜学校を開くよう

になりました。子どもたちの都合に合わせて、教会学校の開校日と時間が次々と変わった頃です。その子どもたちが中学生になると、せっかく土曜学校になじんでいたにも関わらず、部活などで来られなくなってしまうました。それでも中学に入学した最初の頃は「私の教会よ」と言わんばかりにふらりとやって来ることもありました。その子どもたちを最後に土曜学校には一人の生徒もいなくなってしまうました。メッセージを準備してきても、聞いてくれる子どもがいまません。クリスマスホームにも小学生がいなかったのです。春から夏にかけて、それでも牧師と四人の教師たちは集いました。そして、新しく子どもたちを誘うことについて、話し合いました。

●CS子ども大会（二〇一〇年九月）

夏休みが終わったのを見計らって、教会から歩いて二三分の距離にある橋本小学校の校門前で「子ども大会」のチラシ三百枚ほどを配りました。手描きのポスターを掲げ、目立つように風船を身につけて、「聖書の学びと祈り会」のメンバーにも手伝っていただきました。

興味をもって寄ってくる子、大人のように小さく手を振って「結構です」と言う子、無視する子、風船を欲しがる子、

いろいろな反応がありました。子ども大会の当日、十人を少し超えるほどの子どもたちが集いました。子ども大会は、毎月一回土曜日の午後二時からで、礼拝（賛美、祈り、メッセージ）、いくつかのゲームとおやつ（の時間）をもちます。その他の土曜日は普通の土曜学校としました。子ども大会と普通の土曜学校の内容に、特別大きな違いはありません。けれども毎月一回「子ども大会」と銘打って、チラシを配ることに意味がありました。集まる子どもの数は、回数を重ねるにつれ少しずつ減ってきました。それでもいつもだれかが集いました。そして、嬉しいことに、その中に普通の土曜学校にも必ず顔を見せる子どもが数人でできたのです。

●CS土曜学校（二〇一〇年 九月以降）

チラシ配りによって毎週来るようになったのは小学校二年生の二人と幼稚園児一人です。その他に数人が入れ替わり立ち替わり集まり、それは賑やかです。当時の校長先生が「五十年間、教会学校の教師をしてきましたが、こんな元気のいい子どもたちは初めてです」と苦笑されたほどです。たとえ四、五人しか出席していない時でも、十人くらいで賛美しているかと錯覚をするような大声です。礼拝で

は競って聖書の朗読をしたがり、メッセージの途中にはするどい質問や、的外れの意見をはさみます。時に騒がしくなりすぎるので、教師のだれかが思わず大きな声で叱ることもあります。厳しくし過ぎて、かたちだけ整った律法主義にならないように、また子どもたちが教会学校を嫌いにしないように・・・と、クリスチャンホームの子どもが一人もいないこの教会学校のために、教師たちは心を砕いて取り組みました。

こうして、半年間の毎月のチラシ配りと子ども大会は、子どもが一人もいなかった明野のCS土曜学校に数名の元気な子どもたちを定着させてくれたのです。

●CS土曜学校（二〇一一年）

定着した子どもたちは学年が上がっても、顔を見せてくれました。学年が上がると不思議なように、礼拝時の騒がしさは少しおさまりました。それでも質問や意見、リラックスしすぎた態度は続いています。ところが、このメッセージをしながらの応答で、子どもたちが思いがけないほど話の内容を把握していることが分かります。時には先週、先々週のメッセージについてが、その口から出てきます。また、罪の話をしていると、自分の心の中にも真つ暗闇

(罪)があるとはつきり言う子どももいます。「みなさんは土曜学校以外でも、イエス様にお祈りしたことがありますか」と聞いた時には、一人の女の子が「毎晩、一人で祈りしてる」と答えました。

この年の土曜学校は、礼拝、ゲーム、おやつに加えて、み言葉カードとワークに取り組みました。ゲームの時間が減ってしまい、一度不満が出ましたが、その後は順調に続いています。また、奏樂の奉仕をして下さる姉妹があり、賛美の曲も増えてきました。

子どもたちのお誕生日会も始めました。教師たちで心を込めてカードに寄せ書きをします。その日はおやつもちよつと楽しい雰囲気、出来る限りは手作りで心がけています。ただし、問題があります。子どもたちは「クッキーは嫌い」「チョコレートが嫌い」「ケーキは食べへん」「生クリームは気持ち悪くなる」「レーズンはいや」と口々に訴えて来るのです。今のところ、お誕生日会の人気メニユーはアイスクリームケーキとポテトチップスときいきかです。お誕生月の子どもが、ろうそくの火を吹き消すというイベントは何があっても欠かせません。

●CS子ども大会(二〇一一年)

六月と十二月に子ども大会を計画しました。十二月のクリスマス子ども大会には、CS教師研修会で頂いた知恵を用いて、チラシに工夫をしました。しっかりとした色画用紙を六枚切りにして、表にクリスマス大会のお知らせ、裏に保護者の方へのおたよりを書き、今後教会からのお知らせをお送りしても良いという方には住所を書いていただくようにしました。全体にかわいらしい手描きの絵を配し、字も丸っこい手書きにしました。この工夫により、子どもたちは殆んど全員が楽しそうにチラシを受け取ってくれました。ただ残念なことに、裏に名前と住所を書いて下さった保護者はお一人だけでした。

◆「六月子ども大会」 一三人参加

ヨーヨー釣り、お名前ビンゴゲーム 紙芝居(三本の木)、おやつ、お菓子のプレゼント

◆「十二月クリスマス子ども大会」 一二人参加

DVD(ストーリーテラーカフェ)、パーティータイム、プレゼント

●子どもたちのこと

一昨年九月からのチラシ配りによって集うようになった

数人の子どもたち、その後加わった子どもたち、時々加わる子どもたち、とびきりワイルドな子どもたちが、時々発する言葉に注意していると、子どもたちはみんな愛されたいと願っていることが分かります。

たまにだれも来なくて、自分一人だけの出席となると、「今日はひとりじめだ」と喜ぶ子がいます。先生たちをひとりじめ、おやつをひとりじめ・・・ということかも知れませんが。子ども大会のチラシを配っていると、「あまり配らんといて」と言う子がいます。教会学校を自分の大切なちよつと秘密にしておきたい場所と感じているようです。

いつもと違ってたくさんの子どもが集った日「言っとくけどな。ぼくは初めの日から教会学校に来てんねんで！」と教師の一人に叫びながら帰った子がいます。自分の場所と想っていた教会学校に沢山の子が来ていて、シヨックを受けたのでしょうか。また、子どもたちはたいいのことに文句を言います。ここではどれくらいわがママが許されるのかな・・・と大人を試しているようです。子どもたちはそれぞれに愛をひとりじめしたいようです。

この子どもたちに、尽きることはないイエス様の愛を伝えたい・・・そう願っています。子どもたちのパワーに負

けないように、主に助けていただきながら、今日も明野のCS教師たちは励んでいます。

(有松博美)



きれいに塗れました



プー！



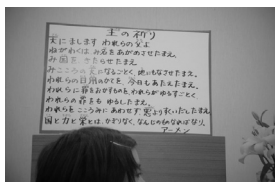
工夫をこらしたゲーム



ふいふ魔球サーブ



今日のおやつは…



手づくりの教材



熱戦！風船バレー